

# 国語科

## 第1項 はじめに

自分について考える・社会について考える・自然について考える、など射程距離の長い学問のためには、実際に自分でからだを動かす経験・先人からの知識・技能の蓄積のどちらも大切です。

学校の学習は授業中心ですが、何よりも「主体的」「能動的」に取り組むことが大切です。

また、受験学年ゆえ、思い切り読書に浸ることは難しいですが、よく作り込まれた文学作品（小説）・興味のある分野の新書、興味を持った古典は少しずつでも読みましょう。

## 第2項 勉強方法

### 1 現代文

「現代文B」は文系・理系ともに必修科目です。自由選択科目では「記述現代文」（現代文B）を設けています。必修科目では教科書の教材を中心に、自由選択科目では国公立大学の入試で出題されることのできる記述問題による演習を中心に授業を行います。

- ・ 予習として、作品を通読し、わからない漢字の読み・語句の意味等は必ず辞書を引いて確認しましょう。また、予習の段階ではわからなかったことはメモしておきましょう。
- ・ 漢字語彙の学習は自学自習が基本ですが、宿題、小テスト等があればしっかり準備しましょう。
- ・ 板書をノートにそのまま写すだけでなく、先生の口頭での説明についても、積極的にメモを取る・文章でまとめるようにすると、記述力が向上するとともに、後々見返した時に理解の助けになります。
- ・ 話し合いの授業では、「フリーライダー」にならないよう、積極的に意見や疑問を交わしましょう。
- ・ 復習をして知識の定着に努めましょう。教科書の「学習の手引き」等、授業で扱わなかった部分にも取り組みましょう。
- ・ 問題演習の際は、答えを書き写すだけでなく、解法のプロセス（解法上の着眼点や手順）を必ず確認しましょう。そうしたことの繰り返しによって、論理的に問題を解く力（なぜそういう答えになるのかという知識）が身につく、得点のばらつきがなくなります。
- ・ 記述問題では、設問で要求されていること（＝出題者の意図）をしっかりと把握する力が求められます。答え方がわからないからといってすぐに解答を見るのではなく、自分なりに文章をまとめた上で解答と照らし合わせ、見過ごしていたポイント、着眼点のズレを確認するようにしましょう。
- ・ サブノートを作り、問題演習で扱った作者・作品名・記録しておきたいメモを残してまとめましょう。
- ・ 漢字力・語彙力は、読解力向上の大切な基盤ですので、普段から活字に触れて力をつけましょう。
- ・ 文学史に関しては、近代以降の文学史について最低限の知識を身につけておきましょう。
- ・ 教科書に採用されている文章は大学の入試問題に出ることの多い著者の作品ですので、授業で扱わないものについても目を通し、自分なりに内容を把握しておきましょう。

### 2 古典

古典に関しては、文系の必修科目として「古典B」を、文系・理系ともに自由選択科目では「古典演習」（古典B）を設けています。必修科目は教科書の教材を中心に進める授業、自由選択科目では文系は記述問題等を含めた演習を中心に、理系は共通テスト対策の演習を中心に授業を行います。

古文・漢文ともに、予習を充実して、授業で完全な理解をめざしましょう。

興味のある人は、より時間をかけて①教科で扱った作品の他の部分も読む。②関連する書物や参考資料を読む、③問題演習で興味を持った作品を読む。など応用学習に取り組みましょう。

#### (1) 古文

- ・ 予習では、脚注や古語辞典、単語集、漢文や文法のテキストを参考にして、自分で現代語に訳してみましょう。その際、解説付きの注釈書やインターネット、教科書ガイドは用いないようにしましょう。
- ・ 本文を繰り返し音読しましょう。できれば、誰かに聞いてもらうほうが効果があります。
- ・ 授業では、自分の予習してきた内容と先生の説明を比較し、間違っていた箇所、理解しきれていない箇所を赤で訂正しましょう。すべてを消して正しい答えだけを記入してしまうと、自分がどういった所でつまづいたのか分からなくなってしまいます。
- ・ サブノートを作り、問題演習で扱った作者・作品名・文法事項・古文単語の意味など、記録しておきたい事項を残してまとめましょう。
- ・ 問題演習は、授業後に復習をすることが非常に効果的です。
- ・ 授業中に出てきた重要単語は、古語辞典や『古文単語315』を活用し、意味・用法を確認しておき

ましよう。また、単語をただ丸暗記するだけではなく、その語の基本的性格を枠づけている中心的な語義をおさえた上で関連する周縁の語義を覚えていきましょう。現代語と同形でありながら、意味の異なる語には特に注意しましょう。

- ・古典文法の学習は2年生まででほぼ完了しています。用言・助動詞・敬語・助詞・和歌の修辞・識別等についてまだ習熟できていない人は早めに穴を埋めておきましょう。
- ・復習では、授業で学習した事柄を自分の知識として確実に定着させ、応用ができるようにしていきましょう。
- ・時代背景・風俗習慣等のいわゆる「古文常識」の理解も文章読解には不可欠な要素です。国語便覧等で自学自習しておくことも必要です。
- ・文学史に関しては、文学史問題集や国語便覧を活用して知識を整理しておきましょう。

## (2) 漢文

- ・予習として、現代語訳や重要句形の部分の書き下し文を書いてみましょう。重要句形（疑問・反語・受身・使役・仮定・比較・抑揚等）を一つ一つ確実に覚えることが大切です。
- ・『新明説漢文』の「用字編」・「漢文基本知識編」についても自学自習で確認しておく、重要語や漢文常識の理解に役立ちます。
- ・理系で共通テスト対策を必要とする人は、漢文の学習にまで手が回らない状況に陥りがちです。早い段階から意識的に取り組み、計画的に学習を進めましょう。
  - ・サブノートを作り、問題演習で扱った作者・作品名・文法事項・古文単語の意味など、記録しておきたい事項を残してまとめましょう。
- ・問題演習は、授業後に復習をすることが非常に効果的です。

## 第3項 成績について

原則として以下の「評価の観点」に従い、一斉テスト・小テスト等の得点・宿題・オンラインの課題への取り組み・課題等の提出物の評価・授業への出席状況・授業態度を鑑みて総合的に判断し、成績を出します。

### 観点1 知識・技能

伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。

### 観点2 思考力・判断力・表現力

目的や場に応じた文章を正しく読み取り、聞き取り、話し合い、発表し合う中で、自分の考えをまとめ、わかりやすく伝え、深めている。

### 観点3 学びに向かう力、人間性

文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。

## 第4項 おわりに

三年生に進級するにあたって、まずは自分自身の課題を客観的に把握しましょう。これまでの二年間で学習したものの忘れてしまった事柄や、理解が不足していることなどを振り返り、自分自身で目標を設定して日々の勉強に取り組めば、必ず実力がつきます。